

---

令和7年度『現代の書写 一・二・三』

# 年間学習指導計画作成資料

令和7年3月

三省堂

## はじめに

この資料は、令和7年度版『現代の書写 一・二・三』をご使用いただくにあたり、年間学習指導計画を作成される際の参考資料として作成いたしました。教材ごとの配当時数、主な学習活動、評価規準などをご提案するものです。学習指導要領の目標や内容、その考え方をふまえ、地域や学校の状況に応じて本資料をご活用くださいますようお願い申し上げます。

### 配当時数

学習指導要領に示された時数に基づき、年間の総授業時数は、1年・2年 20 時間、3年 10 時間としました。なお、教材ごとの配当時数については、p.2「令和7年度版『現代の書写 一・二・三』年間学習指導計画例」をご参照ください。

学年(総時数)	1年(140)	2年(140)	3年(105)
国語	120	120	95
書写	20	20	10

### 学習指導要領の指導事項と本資料での略称

〔知識及び技能〕 (3) 我が国の言語文化に関する事項

学年	指導事項	略称
1年	エ (ア) 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと。	エ (ア)
	エ (イ) 漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書くこと。	エ (イ)
2年	ウ (ア) 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと。	ウ (ア)
	ウ (イ) 目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書くこと。	ウ (イ)
3年	エ (ア) 身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書くこと。	エ (ア)

〔思考力、判断力、表現力等〕 B 書くこと ※該当箇所のみ抜粋

学年	指導事項	略称
1年	エ 読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること。	Bエ
2年	エ 読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えること。	Bエ
3年	エ 目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えること。	Bエ

### 評価規準の観点と本資料での略称

**知・技**：「知識・技能」に関する評価

**思・判・表**：「思考力、判断力、表現力等」に関する評価  
(国語の各領域の学習と関連づける場合を想定している)

**主**：「主体的に学習に取り組む態度」に関する評価

# 令和7年度版『現代の書写 一・二・三』年間学習指導計画例

## ■ 巻頭

月	単元	教材名 ● 学習目標	時数	主な学習活動	評価規準
		<b>国語「朝の 릴레이」</b> この教科書の使い方 自分の文字をよりよくするために	適宜	◆ 書写学習の大まかな内容をつかみ、学習の流れを適宜理解する。	—
	学習のはじめに	<b>【毛筆】</b> ・姿勢と構え方 ・大筆の持ち方 ・小筆の持ち方・構え方 ・筆の運び方 ・用具の扱い方  <b>【硬筆】</b> ・姿勢と構え方 ・鉛筆の持ち方	適宜	◆ 書写学習や日常で使用する代表的な筆記具の持ち方と、書くときの姿勢、用具の扱い方などについて理解を適宜深める。 → ■二次元コード■	—

月	単元	教材名 ●学習目標	時数	主な学習活動	評価規準
4 5 5	「1」 楷書	<b>字形の整え方と筆使い</b> <b>書き方を学ぼう</b> ◎字形の整え方と楷書の点画の筆使いを理解して書くことができる。(知・技(3)エ(ア))	2	◆目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 <b>書き方を学ぼう</b> で「字形の整え方」の要点を確認する。 2 「天地」以外の字を整えて書くために、どのようなことに注意すればよいかを考える。 3 「点画の種類と筆使い」を確認する。 →■二次元コード■ 4 書き方のポイントを意識して「天地」を毛筆で書く。 →■二次元コード■ ◆目標を再確認し、学びを振り返る。	<b>知・技</b> ・ <u>字形の整え方を理解して書いている。</u> ((3)エ(ア)) <b>主</b> ・進んで字形の整え方を理解し、学習の見通しをもって文字を書こうとしている。
		<b>書いて身につけよう</b> <b>字形の整え方</b> <b>(点画の組み立て・部分の組み立て・外形)</b>	1	1 これまでに学習したこと(「字形の整え方」)を意識して、硬筆で「天地」を書く。 2 点画の組み立て、部分の組み立て、外形を意識して、硬筆で繰り返し書く。 3 単元を通して学んだことが活用できているか、「和音」を書いて確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	*この時間の評価は、前の教材(字形の整え方)と合わせて行う。
		◆ <b>国語</b> 活字と手書き文字・筆順 ◎活字と手書き文字の違いや、筆順の原則について理解を深めることができる。(知・技(3)エ(ア))	1	1 手書き文字と代表的なフォント数種を比較し、違いを確かめる。 2 手書きの楷書で書かれた標準的な字形と、それとは異なる書き方との違いを確かめる。 3 筆順の意義や原則を確かめる。 4 気をつけたい筆順の字を確かめる。 →■二次元コード■	<b>知・技</b> ・ <u>字形の整え方を理解している。</u> ((3)エ(ア)) <b>主</b> ・積極的に字形の整え方を確かめ、今までの学習を生かして理解を深めようとしている。
6 5 7	「2」 楷書と仮名	<b>仮名の字形と筆使い</b> <b>書き方を学ぼう</b> ◎仮名の字形と筆使いを確かめて書くことができる。(知・技(3)エ(ア))	2	◆目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 平仮名や「いろは歌」の成立について理解する。 2 <b>書き方を学ぼう</b> で「仮名の字形と筆使い」についてのポイントを確認する。 3 教科書の「いろは歌」の字と自分の字を比べたり、書き方のポイントが「いろは歌」ではどこに使われているか考えたりして、字形を確かめる。 4 書き方のポイントを意識して「いろは歌」を小筆で書く。 ◆目標を再確認し、学びを振り返る。 →■二次元コード■	<b>知・技</b> ・ <u>字形の整え方(仮名)を理解して書いている。</u> ((3)エ(ア)) <b>主</b> ・進んで字形の整え方(仮名)を理解し、学習の見通しをもって文字を書こうとしている。
		<b>文字の大きさと配列</b> <b>書き方を学ぼう</b> ◎文字の大きさと配列を意識して、読みやすく書くことができる。(知・技(3)エ(ア))	2	◆目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 <b>書き方を学ぼう</b> で「文字の大きさと配列」についてのポイントを確認する。 2 読みやすくするために、文字の大きさや配列が工夫されている箇所を見つける。 3 毛筆で書かれた「暑き日を……」を指でなぞり、書き方のイメージをつかむ。 4 書き方のポイントを意識して「暑き日を……」を小筆で書く。 ◆目標を再確認し、学びを振り返る。 →■二次元コード■	<b>知・技</b> ・ <u>文字の大きさ、配列などについて理解して書いている。</u> ((3)エ(ア)) <b>主</b> ・進んで文字の大きさ、配列などについて理解し、学習の見通しをもって文字を書こうとしている。

月	単元	教材名 ●学習目標	時数	主な学習活動	評価規準
		<b>書いて身につけよう</b> 仮名の字形／ 文字の大きさ配列 <b>国語</b> 「空中ブランコ乗りのキキ」 「レポート」	1	1 これまでに学習したこと(仮名の字形・文字の大きさと配列)を意識して、「空中ブランコ乗りのキキ」の一節を書く。 2 「レポート」を想定して、横書きの文章や数字、アルファベットを書く。 3 単元を通して学んだことが活用できているか、「失敗は成功のもと」を書いて確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	*この時間の評価は、前の教材(仮名の字形・文字の大きさと配列)と合わせて行う。
		<b>◆文字の変遷</b> ◎漢字と仮名の成立や、現在までの変遷について理解できる。(知・技(3)エ(ア)・(イ))	1	1 身のまわりの文字に使われている書体について意識する。 2 漢字の書体の変遷を理解する。 3 漢字をもとにして、平仮名と片仮名が誕生したことを理解する。 →■二次元コード■	<b>知・技</b> ①字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解している。((3)エ(ア)) ②漢字の行書の基礎的な書き方を理解している。((3)エ(イ)) <b>主</b> ・積極的に文字の変遷について理解し、今までの学習を生かして文字の歴史への理解を深めようとしている。
9 5 10	「3」 行書	<b>行書の特徴</b> ◎行書の特徴を理解できる。(知・技(3)エ(イ))	1	<b>◆目標を確認し、学習の見通しをもつ。</b> 1 行書から受ける印象を話し合う。 2 行書の特徴を確かめる。 3 「結」「実」を指でなぞり、楷書と行書の違いを確かめる。 4 硬筆の「結」「実」をなぞり書きする。 <b>◆目標を再確認し、学びを振り返る。</b> →■二次元コード■	<b>知・技</b> ・漢字の行書の基礎的な書き方を理解している。((3)エ(イ)) <b>主</b> ・進んで漢字の行書の基本的な書き方を確かめ、学習の見通しをもって理解しようとしている。
		<b>点画の丸み</b> <b>書き方を学ぼう</b> ◎点画の丸みを理解して書くことができる。(知・技(3)エ(イ))	2	<b>◆目標を確認し、学習の見通しをもつ。</b> 1 <b>書き方を学ぼう</b> で「点画の丸み」について、書き方のポイントをつかむ。 2 書き方のポイントが「名月」ではどこに使われているか考える。 3 「名月」を指でなぞり、書き方のイメージをつかむ。 4 書き方のポイントを意識して「名月」を毛筆で書く。 <b>◆目標を再確認し、学びを振り返る。</b> →■二次元コード■	<b>知・技</b> ・漢字の行書の基礎的な書き方(点画の丸み)を理解して書いている。((3)エ(イ)) <b>主</b> ・進んで漢字の行書の基礎的な書き方(点画の丸み)を理解し、学習の見通しをもって文字を書こうとしている。
11 5 12		<b>点画の連続</b> <b>書き方を学ぼう</b> ◎点画の連続を理解して書くことができる。(知・技(3)エ(イ))	2	<b>◆目標を確認し、学習の見通しをもつ。</b> 1 <b>書き方を学ぼう</b> で「点画の連続」について、書き方のポイントをつかむ。 2 書き方のポイントが「元気」ではどこに使われているか考える。 3 「元気」を指でなぞり、書き方のイメージをつかむ。 4 書き方のポイントを意識して「元気」を毛筆で書く。 <b>◆目標を再確認し、学びを振り返る。</b> →■二次元コード■	<b>知・技</b> ・漢字の行書の基礎的な書き方(点画の連続)を理解して書いている。((3)エ(イ)) <b>主</b> ・進んで漢字の行書の基礎的な書き方(点画の連続)を理解し、学習の見通しをもって文字を書こうとしている。

月	単元	教材名 ●学習目標	時数	主な学習活動	評価規準
		<b>点画の形や方向の変化</b> <b>書き方を学ぼう</b> ◎点画の形や方向の変化を理解して書くことができる。(知・技(3)エ(イ))	2	◆目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 <b>書き方を学ぼう</b> で「点画の形や方向の変化」について、書き方のポイントをつかむ。 2 書き方のポイントが「探究」ではどこに使われているか考える。 3 「探究」を指でなぞり、書き方のイメージをつかむ。 4 書き方のポイントを意識して「探究」を毛筆で書く。 ◆目標を再確認し、学びを振り返る。 →■二次元コード■	<b>知・技</b> ・漢字の行書の基礎的な書き方(点画の形や方向の変化)を理解して書いている。((3)エ(イ)) <b>主</b> ・進んで漢字の行書の基礎的な書き方(点画の形や方向の変化)を理解し、学習の見通しをもって文字を書こうとしている。
		<b>書いて身につけよう</b> 点画の丸み／ 点画の連続／ 点画の形や方向の変化 <b>国語</b> 「竹取物語」 「故事成語—矛盾」 「トロッコ」 「少年の日の思い出」	1	1 これまでに学習したこと(点画の丸み・点画の連続・点画の形や方向の変化)を意識して、「名月」「元気」「探究」を書く。 2 点画の丸み・連続・形や方向の変化を意識して、繰り返し書く。 3 行書の特徴を意識して、「竹取物語」「故事成語」「トロッコ」「少年の日の思い出」に出てくる言葉を書く。 4 単元を通して学んだことが活用できているか、「未知」を書いて確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	*この時間の評価は、前の教材(点画の丸み・点画の連続・点画の形や方向の変化)と合わせて行う。
1 5 3		<b>国語</b> [やってみよう] <b>グループ新聞を作ろう</b> ◎今まで学習してきたことを生かして書くことができる。(知・技(3)エ(ア)・(イ)・Bエ)	2	◆目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 編集会議を開き、記事の内容を決める。 2 レイアウトを決めて、記事を書く。 3 記事を推敲し、紙面を作る。 4 グループ新聞を読み合う。 ◆目標を再確認し、学びを振り返る。 →■二次元コード■	<b>知・技</b> ①字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して書いている。((3)エ(ア)) ②漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書いている。((3)エ(イ)) <b>思・判・表</b> ・「書くこと」において、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えている。(Bエ) <b>主</b> ・積極的に字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解し、今までの学習を生かしてグループ新聞を書こうとしている。

■ 2年

月	単元	教材名 ●学習目標	時数	主な学習活動	評価規準
4 5 5	「1」 行書	点画の省略 書き方を学ぼう ◎点画の省略を理解して書くことができる。(知・技(3)ウ(ア))	3	◆目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 書き方を学ぼうで「点画の省略」について、書き方のポイントをつかむ。 2 書き方のポイントが「親和」ではどこに使われているか考える。 3 「親和」を指でなぞり、書き方のイメージをつかむ。 4 書き方のポイントを意識して「親和」を毛筆で書く。 ◆目標を再確認し、学びを振り返る。 →■二次元コード■	知・技 ・漢字の行書の基礎的な書き方(点画の省略)を理解して書いている。((3)ウ(ア)) 主 ・進んで漢字の行書の基礎的な書き方(点画の省略)を理解し、学習の見通しをもって文字を書こうとしている。
6 5 7		筆順の変化 書き方を学ぼう ◎筆順の変化を理解して書くことができる。(知・技(3)ウ(ア))	3	◆目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 書き方を学ぼうで「筆順の変化」について、書き方のポイントをつかむ。 2 書き方のポイントが「紅花」ではどこに使われているか考える。 3 「紅花」を指でなぞり、書き方のイメージをつかむ。 4 書き方のポイントを意識して「紅花」を毛筆で書く。 ◆目標を再確認し、学びを振り返る。 →■二次元コード■	知・技 ・漢字の行書の基礎的な書き方(筆順の変化)を理解して書いている。((3)ウ(ア)) 主 ・進んで漢字の行書の基礎的な書き方(筆順の変化)を理解し、学習の見通しをもって文字を書こうとしている。
		書いて身につけよう 点画の省略／筆順の変化	1	1 これまでに学習したこと(点画の省略・筆順の変化)を意識して、「親和」「紅花」を書く。 2 点画の省略、筆順の変化を意識して、繰り返し書く。 3 行書の特徴を意識して、都道府県名を書く。 4 単元を通して学んだことが活用できているか、「泰然自若」を書いて確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	*この時間の評価は、前の教材(点画の省略・筆順の変化)と合わせて行う。
9 5 11	「2」 行書と仮名	行書と仮名の調和 書き方を学ぼう ◎行書と仮名の調和を意識して書くことができる。(知・技(3)ウ(ア))	3	◆目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 書き方を学ぼうで「行書と仮名の調和」について、書き方のポイントをつかむ。 2 書き方のポイントが「豊かな実り」ではどこに使われているか考える。 3 「豊かな実り」を指でなぞり、書き方のイメージをつかむ。 4 書き方のポイントを意識して「豊かな実り」を毛筆で書く。 ◆目標を再確認し、学びを振り返る。 →■二次元コード■	知・技 ・漢字の行書に調和した仮名の書き方を理解して書いている。((3)ウ(ア)) 主 ・進んで漢字の行書に調和した仮名の書き方を理解し、学習の見通しをもって文字を書こうとしている。
		行書に調和する仮名 書き方を学ぼう ◎行書に調和する仮名の特徴を意識して書くことができる。(知・技(3)ウ(ア))	3	◆目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 書き方を学ぼうで「行書に調和する仮名」について、書き方のポイントをつかむ。 2 書き方のポイントが「いろは歌」ではどこに使われているか考える。 3 書き方のポイントを意識して「いろは歌」を小筆で書く。 ◆目標を再確認し、学びを振り返る。 →■二次元コード■	知・技 ・漢字の行書に調和した仮名の書き方を理解して書いている。((3)ウ(ア)) 主 ・進んで漢字の行書に調和した仮名の書き方を理解し、学習の見通しをもって文字を書こうとしている。

月	単元	教材名 ●学習目標	時数	主な学習活動	評価規準
		<b>書いて身につけよう</b> 行書と仮名の調和／ 行書に調和する仮名 <b>国語</b> 「枕草子」「平家物語」 「手紙・メール」	1	1 これまでに学習したこと(行書と仮名の調和・行書に調和する仮名)を意識して、硬筆で「枕草子」と「平家物語」の一節を書く。 2 行書と仮名の調和を意識して、はがきの表面と裏面を書く。 →資料編②「はがきの書き方」 3 単元を通して学んだことが活用できているか、「心を伝える文章」を書いて確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	＊この時間の評価は、前の教材(行書と仮名の調和・行書に調和する仮名)と合わせて行う。
12	「3」 楷書と行書	<b>楷書と行書の使い分け</b> ◎目的や必要に応じて、書体を選択して書くことができる。(知・技(3)ウ(イ))	2	◆目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 P62 ア～ウの各場面では、楷書と行書のどちらで書くのがふさわしいかを考える。 2 ア～ウについて発表し合い、気づいた点をまとめる。 3 2で選んだ書体で実際に書いて確認し、楷書と行書の使い分けについて考えを深める。 ◆目標を再確認し、学びを振り返る。	<b>知・技</b> ・目的や必要に応じて、楷書または行書を選んで書いている。((3)ウ(イ)) <b>主</b> ・進んで楷書または行書を選び、学習の見通しをもって文字を書こうとしている。
1 5 3		<b>国語</b> 「やってみよう」 <b>情報誌を作ろう</b> ◎今まで学習してきたことを生かして書くことができる。(知・技(3)ウ(ア)・(イ))	2	◆目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 編集会議を開き、企画を立てる。 2 情報収集を行う。 3 レイアウトを決める。 4 記事を書き、誌面をつくる。 5 情報誌を読み合う。 ◆目標を再確認し、学びを振り返る。 → <b>二次元コード</b>	<b>知・技</b> ①漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解し、読みやすく速く書いている。((3)ウ(ア)) ②目的や必要に応じて、楷書または行書を選んで書いている。((3)ウ(イ)) <b>思・判・表</b> ・「書くこと」において、読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えている。(Bエ) <b>主</b> ・積極的に漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解し、今までの学習を生かして情報誌を書こうとしている。
		<b>学力テスト問題</b> ◎今まで学習してきたことを生かして問題に取り組むことができる。(知・技(3)ウ(ア)・(イ))	2	1 これまでに学習したことを振り返り、学力テスト問題に取り組む。 2 P103「解答と解説」を確認し、学びを深める。	<b>知・技</b> [1年] ①字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して書いている。((3)エ(ア)) ②漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書いている。((3)エ(イ)) [2年] ①漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解し、読みやすく速く書いている。((3)ウ(ア)) ②目的や必要に応じて、楷書または行書を選んで書いている。((3)ウ(イ)) <b>主</b> ・進んで習得した知識・技能を振り返り、今までの学習を生かして課題に取り組もうとしている。



3年

月	単元	教材名 ●学習目標	時数	主な学習活動	評価規準
4 5 7	「1」 文字文化の豊かさ	身のまわりの文字  ◎文字文化の豊かさにふれ、効果的に文字を書くことの必要性について考えることができる。(知・技(3)エ(ア))	4	◆目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 文字についての考えを共有する。 2 手書き文字や活字による伝え方の変遷について考える。 3 文字の魅力について話し合う。 4 効果的に文字を書くことについて考える。 5 今後、自分自身がどのように文字を書くことに関わっていくか考える。 ◆目標を再確認し、学びを振り返る。	<b>知・技</b> ・身のまわりの多様な表現を通して文字文化の豊かさにふれている。((3)エ(ア)) <b>主</b> ・積極的に身のまわりの多様な表現にふれ、学習の見通しをもって文字文化への理解を深めようとしている。
		<b>書いて身につけよう</b> 身のまわりの文字 <b>国語</b> 「おくのほそ道」 「坊っちゃん」	1	1 これまでに学習したことを意識して、硬筆で「おくのほそ道」(松尾芭蕉)と「坊っちゃん」(夏目漱石)の一節を書く。 2 3年間の学びを振り返り、自分が学んだことを行書で書き残す。	*この時間の評価は、前の教材(身のまわりの文字)と合わせて行う。
9 5 3		<b>国語</b> [やってみよう] 名言集を作ろう  ◎今まで学習してきたことを生かして書くことができる。(知・技(3)エ(ア))	5	◆目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 編集方針を立てる。 2 言葉を集める。 3 構成や用具・用材を決め、清書する。 4 名言集を読み合う。 ◆目標を再確認し、学びを振り返る。 → <b>二次元コード</b>	<b>知・技</b> ・身のまわりの多様な表現を通して文字文化の豊かさにふれ、効果的に文字を書いている。((3)エ(ア)) <b>思・判・表</b> ・「書くこと」において、目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えている。(Bエ) <b>主</b> ・積極的に身のまわりの文字文化の豊かさにふれ、これまでの学習を生かして名言集を書こうとしている。